

鹿角地域 【目指す姿】北東北のど真ん中！から世界遺産・国立公園の魅力を発信！ ～90分圏内で秋田・青森・岩手を楽しむ～

プロジェクトの柱	取組方針	令和5年度の主な取組の状況 (R5.10.31現在)	課題・R6年度の対応方針 (予定)
1 世界文化遺産の「縄文遺跡群」をセールスポイントとした広域連携	(1)体験型観光コンテンツの開発 (2)広域連携による観光誘客	(1)体験型観光コンテンツの開発 JOMON体感事業によるコンテンツ開発等(鹿角市) (縄文食メニュー(R3)、AR・VR体感メニュー(R4)) (2)広域連携等による観光誘客 ①深緑から紅葉までぐるっと十和田八幡平観光キャンペーンを実施中(盛岡広域振興局と共同) (十和田八幡平観光パスポート発行:23,000部作成)、(キャンペーン期間7/22～11/6) ②御所野・大湯・是川・縄文周遊ルートの確立(岩手県北広域振興局と青森県三八地域県民局と共同) (縄文周遊マップ作成:県内配布用4,000作成)、(スタンプラリー:7/27～11/30) ③世界文化遺産登録PRパネル展の開催(北秋田地域振興局と共同) (5/22～6/27, 7/3～7/25, 9/1～9/29, 10/3～10/31 計4回) ④白山山地と縄文遺跡群共同パネル展(北秋田・山本地域振興局と共同) (8/11、秋田駅東西連絡自由通路ぼぼろ一ど) ⑤ボランティアガイドの研修(伊勢堂岱遺跡・御所野遺跡と合同) (11/12、是川石器時代遺跡にて開催予定) ⑥「大湯環状列石」二次アクセスの検証(鹿角地域振興局) タクシーへの半額助成を実施(7/27～10/31)	◎大湯環状列石(ストーンサークル館)の入込客数は対前年比で回復傾向だが、引き続き縄文遺跡群を中心とした誘客コンテンツの造成やPRが課題となっている。 →次年度はスタンプラリーを紙媒体からデジタルへ変更し、若者層にも興味を持ってもらうと共に、デジタル化により詳細のマーケティング調査が可能となるため、今後の観光施策の参考データとして活用していく。また、広域連携をしている遺跡同士が双方でPR展示を実施するなど、スケールメリットを生かした取組を引き続き展開する。
2 「鹿角でSDGsを学ぶ！」をテーマにした教育旅行の誘致	(1)鹿角の強みを生かしたSDGs学習メニューの開発 (2)岩手県及び周辺自治体と連携した教育旅行の誘致・PR	(1)鹿角の強みを生かしたSDGs学習メニューの開発(鹿角地域振興局) 北海道及び北東北の中学校の先生を対象にSDGsに関するアンケート調査を実施予定 (2)周辺自治体と連携した教育旅行の誘致・PR ①学校・旅行会社等を対象に鹿角地域の素材を売り込むキャラバン等を実施(鹿角市・小坂町・かづのDMOと共同)(7月、11月:北海道へ誘致活動予定) ②観光・宿泊施設、教育関係者等による意見交換会を実施(鹿角地域振興局)(9月・3月、2回開催予定)	◎鹿角地域への来訪実績の多い北海道の学校では、飛行機を利用した関東への教育旅行が増加しており、今後同地域での教育旅行受入が減少することが想定される。 →継続的な誘致が課題であることから、鹿角地域一体としてSDGs学習プログラムの作成等コンテンツの磨き上げのほか、キャラバンによる学校訪問を通じた誘致活動を展開する。
3 「十和田八幡平国立公園」における新たな魅力創造による誘客促進	(1)八幡平温泉郷エリア (2)十和田湖「西湖畔」エリア (3)十和田湖「和井内」エリア	(1)八幡平温泉郷エリア ①八幡平の魅力アップに向けた構想の策定(鹿角市) 魅力アップ構想に係る実施設計委託を実施し、E-BIKEを活用したサイクリングコースを試作 ②八幡平二次アクセス整備検討 八幡平地区においては、鹿角市を中心にNPO法人による自家用有償旅客運送制度の活用を検討 (2)十和田湖「西湖畔」エリア アクティビティ及びワーケーションの拠点となる十和田ふるさとセンターの整備(小坂町) (3)十和田湖「和井内」エリア ①「和井内」地区道の駅の周辺整備(小坂町) R6に道の駅十和田湖オープン予定 ②ヒメマスによる誘客促進(小坂町) ヒメマス関連の展示など整備中 ③鹿角・小坂二次アクセス整備検討 鹿角花輪駅と十和田湖をハブとした鹿角地域乗合周遊タクシーを検討	◎十和田八幡平国立公園では、コロナ禍前に比べ観光客が減少しており、誘客対策が課題となっている。 →八幡平での新たなアクティビティであるサイクルツーリズムの推進のほか、鹿角地域全般における二次アクセスの整備を検討する。また、地域DMOである「かづのDMO」のエリアに小坂町も加え、鹿角市と小坂町を一体にしたPRを実施する。

北秋田地域【目指す姿】リアル“な”体験からリアル“を”体験する奥秋田への誘い ～来なくても楽しめる 来たらもっと楽しめる 大館・北秋田～

プロジェクトの柱	取組方針	令和5年度の主な取組の状況 (R5.10.31現在)	課題・R6年度の対応方針 (予定)
1 SDGsに深く関わるマタギ文化を学べるコンテンツづくり	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“を”体験(現実体験)】 ①マタギ体験の提供(秋田犬ツーリズム) ・マタギと一緒に山を歩くインバウンド向けロングトレイル 造成中のコンテンツではあるが、同事業のアドバイザーを通じATWSで海外のエージェントへ紹介。一般的に反応が良く、興味を持ったエージェント1社が直接こちらへヒアリングに訪れた。同コンテンツへの期待値の高さを確認。 観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」におけるモデル観光地に八幡平エリアが指定されたが、北東北ならではのコアバリューを見出すため当エリアを舞台に同事業の意見交換会を開催。マタギの暮らしを感じられるエクスカージョンを実施し、この地域の人々の生活の中にあるコアバリューを探った。	◎マタギ体験の提供については、ルート上にある仙北市玉川温泉周辺のエリアでは、クマ被害防止のため入林禁止措置がとられている。 →状況の改善が難しいことから、まずはショートトレイルの開拓・商品化に取り組む。(すでに商品化されているコースもあるが、ここではロングトレイルの一部を切り取る形で新たに造成するショートトレイルを指す。) ◎海外の人々の心を動かす「ここにある生活」の価値を表現するために、「マタギ」ならではのサステナビリティを具現化していく作業が必要。 →同事業の指定を受けた八幡平DMOや周辺のDMOと連携し、北東北に共通するコアバリューを見出しながら同事業を推進していく。
2 伊勢堂岱遺跡を核とした縄文文化を体験できるコンテンツの開発	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“な”体験(仮想体験)】 ①世界遺産「伊勢堂岱遺跡のXR化」(北秋田市) ・バーチャル体験コンテンツの整備(一般公開はR5.4月～) 【リアル“を”体験(現実体験)】 ①縄文の暮らしや文化の体験(北秋田市) ・「北秋田市縄文まつり」の開催(9/9) 内容:勾玉づくりや土器・土偶づくり、縄文料理体験等(参加者数:897名)	◎整備したバーチャル体験コンテンツのさらなる周知が必要であるほか、縄文文化を体験できるイベントを開催し、世界遺産への誘客を図ることが求められる。 →遺跡への誘客促進に向けた取組を進めていく。
3 キラーコンテンツの「秋田犬」を活用したアニマルツーリズムの推進	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“を”体験(現実体験)】 ①ハチ公生誕100年プロジェクト(大館市) ・ハチ公生誕100周年を記念し、渋谷区等関係機関と協働で誘客イベントを実施する。 ハチ公生誕100年フェスティバルin渋谷(8/5～6)、大館うたの日(8/11)、ハチ公生誕100年フェスティバルin大館(11/11～12) ②秋田犬とのふれあい体験をアクティビティとして商品化(秋田犬ツーリズム) ・秋田犬に会える大館市の旅館「ふるさわおんせん」で、宿泊者以外のかたでも参加できる「秋田犬とのふれあい体験」を商品化。商品化とOTAへの掲載をサポートし、一般販売開始に向けて準備中。 ③渋谷の企業向け「ハチ公から秋田を知る」研修旅行(秋田犬ツーリズム) ・渋谷の商業施設と連携し、そこで働く人たちにハチ公や秋田犬を切り口として秋田を深く知ってもらう研修旅行を3回実施した。秋田の魅力だけでなく、地域が抱える課題も感じてもらい、渋谷で働きながら地方に貢献できることを考えていただく機会となった。	①ハチ公に関連した事業について、次年度以降も取組を検討中。 ②◎秋田犬への負担を考慮して、参加人数の上限などを設ける必要がある。 →販売開始後も随時調整、見直していく。 ③今回連携した商業施設との連携は今後も継続し、さらに充実した研修旅行に磨き上げるとともに、他の企業へも展開していく。さらには、秋田の企業とのマッチングを実現し、都市間交流のパイプを太くしていく。
4 ”奥秋田”を体感できるアクティビティの提供	【リアル“な”体験(仮想体験)】 【リアル“を”体験(現実体験)】	【リアル“を”体験(現実体験)】 ○“各種体験”コンテンツの提供 ①樹氷教室(森吉山の樹氷案内協議会)、森吉山自然観察会(森吉山阿仁スキー場) ・樹氷教室(R6.1月～3月)、ピステンツアー体験、夜の樹氷鑑賞会、自然観察会(6月～10月・計8回、計142名) ②SUP(森吉海洋クラブ)、カヌー体験(カヌーシーダ秋田) ・SUP(6月～10月、計5回、100名)、カヌー(6月～10月、計10回、200名(うち四季美湖まつり132名)) ・モンベルアウトドアチャレンジ(市委託) SUP体験12名、カヤック体験13名(8/19～8/20) ③野遊びSDGsの推進(大館市) ・五色湖エリアでの施設整備や体験メニューの検討が進んでいる。 ④自転車をはじめとしたスポーツツーリズム(北秋田地域振興局) ・秋田内陸線沿線を巡るテストライド(11/4)を予定していたが、雨天により中止となった。 ⑤「奥秋田」大館の食・歴史・産業コンテンツ開発(秋田犬ツーリズム) 田代名産たけのこのブランド価値向上を目的とした検討会を実施中。(野遊びSDGs事業と連携)	①◎樹氷教室について、収入は受託収入のみで、行政依存からの脱却が課題。また、インバウンドに対しては、指差しツールしかなく、多言語対応に課題がある。 →有償化コンテンツ造成を進め、自走化を目指す。森吉山自然観察会については、現地だからこと体験できるコンテンツの提供を継続して実施する。 ②◎対応者が1人(高齢者)であり、安定した受入体制ができていないこと、インストラクターの資格等を有していないので、OTA等への販売が難しいこと、料金設定の根拠もなく、～1000円程度で実施しているため、持続性や地域経済効果が低いことが課題にある。 →R4年度事業でガイド資格を取得した方のアクティビティ自走化支援として、モンベルアウトドアチャレンジを実施。イベント企画・運営をモンベルの支援を受けながら実施し、学んでもらった。今後は事業団体の設立と自走化が見込まれる。 ③地域住民と協働し地域ならではの体験メニュー造成に向けたワークショップ等を開催。 ※令和6年度振興局事業では、②③に関連するアウトドアアクティビティのインストラクター人材の確保・育成に関する支援事業を計画している。 ④◎サイクルツーリズムの推進については、地域が一体となって進める必要がある。 →大館市が主催するサイクルイベントと連携し、コースマップの作成などサイクルツーリズムを推進し誘客の拡大を図る。

山本地域【目指す姿】世界自然遺産「白神山地」に代表される“本物の大自然”と“人”にやさしいサステナブルな観光地域づくり

プロジェクトの柱	取組方針	令和5年度の主な取組の状況（R5.10.31現在）	課題・R6年度の対応方針（予定）
1 自然保護と観光振興の両立に向けた白神が有する価値の地元理解促進と地域ブランドの確立		<p>○DMO月次会議の参加・課題共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DMOあきた白神ツーリズムと白神山地に関連する取組や課題などを共有、地域ブランド確立について検討・協議継続</li> </ul> <p>○白神ブランド確立に向けた取組の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋久島ガイドを招聘し、白神認定ガイドとの相互研鑽を通じて、ガイドング技術向上と世界遺産相互の連携を図った（6月）</li> <li>・白神山地世界遺産登録30周年を記念した「あきた白神観光フォトコンテスト」の実施（9月～2月）</li> <li>・昨年度開設したInstagramに加え、白神山地の情報に特化したFacebookを開設し、白神山地の情報を多角的に発信</li> </ul>	<p>◎白神山地周辺のSDGsに関連する観光資源（洋上風力発電や縄文遺跡群など）の価値を十分に活かし切れていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→洋上風力発電や縄文遺跡群などと連携した取組を実施し、広域的に白神ブランドの確立を目指す。</li> <li>→白神の自然や地域資源などをテーマとしたフォトコンテストを開催し誘客を図る。</li> </ul> <p>◎令和6・7年度、県道西目屋二ツ井線の道路防災工事に伴い、紅葉時期の10月を除き岳岱自然観察教育林方面が全面通行止めとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→冬季に加え、岳岱方面に入れなくなる春・夏の時期に白神山地周辺で楽しめる観光コンテンツの造成・発信を行う。</li> <li>→白神山地周辺地域の情報をSNSやホームページなどで発信していく。</li> </ul>
2 環境と人にやさしい受入体制の充実	<p>(1)地域認証制度の創設によるエコフレンドリー（自然に優しい）な取組の推進</p> <p>(2)エコカーのレンタル・送迎拠点の整備</p> <p>(3)初心者でも手軽に自然体験アクティビティを楽しめるグッズレンタルの整備</p>	<p>(1)地域認証制度の創設によるエコフレンドリー（自然に優しい）な取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能代山本地域の小中学生に対し、環境学習に取り組む可能性について関係機関と協議</li> <li>・「子ども環境探偵団」地元の子どもたちが体験活動を通じて白神の自然について感じるイベント開催（11月）（能代市）</li> </ul> <p>(2)エコカーのレンタル・送迎の拠点整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①エコカーレンタルに関するアンケートを事業者・利用者に対して実施（結果分析中）</li> <li>②サイクルツーリズムのコースを設定したほか、自転車愛好家とテストライドを実施。</li> </ol> <p>(3)グッズレンタルの整備・予約システムの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型コンテンツのOTA販売導入（ActivityJapanなど）（あきた白神ツーリズム）</li> </ul>	<p>◎白神山地が現状では教育旅行の受け入れ先となっていないなど、県北エリアが有するSDGsのポテンシャルを活かし切れていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→環境学習に関しては、管内市町教育委員会など小中学校の教育現場と協議を進め、教師や外部有識者の意見を聞きながらプログラム内容を構築していく。</li> </ul> <p>◎レンタカーのハイブリッド車導入は進んでいるが、EV車に関して価格や充電スポット等課題が多く、積極的な活用の機運がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→EV公用車を活用したカーシェアの実証実験等、引き続き導入方法を検討する。</li> <li>→より一層環境に配慮した移動手段として、サイクルツーリズムを推進していくため、コースマップ作成、テストライド、ミニイベントの開催等を実践するとともに、県北振興局と連携した広域ルートの可能性を探る。</li> </ul> <p>◎グッズレンタル導入はサイズ・在庫数・保管場所確保の課題や需要把握など多くの課題があり、観光事業者と引き続き検討を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→OTA販売は新たな体験コンテンツを地域と造成するほか、県冬季誘客事業の予約サイトとの連携を進めていく。</li> </ul>
3 「本物の大自然」と「地元住民との交流」を核とした誘客の拡大	<p>(1)あこがれの場所「白神」で楽しむ多様な体験メニューづくり</p> <p>(2)風土・暮らしの観光コンテンツ化</p> <p>(3)DMOなどとの連携によるプロモーション</p>	<p>(1)「白神」で楽しむ多様な体験メニューづくり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ブナの学校運営協議会と共同で新たな観光コンテンツを組み合わせたツアーを造成、モニターツアーを実施（9、10月）</li> <li>②環境にやさしい木材コンテンツ造成を能代木材産業連合会と実施。年度内に講習会、動画作成を行い6年度以降管内観光事業者に水平展開する。</li> </ol> <p>(2)地域団体が主催した関連イベントに参加して情報収集・検討を実施</p> <p>(3)DMOなどとの連携によるプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田市で「白神山地と縄文遺跡群世界遺産PRパネル展」開催（鹿角・北秋田地域振興局共同）（8月）</li> <li>・秋田市で「世界遺産登録30周年記念シンポジウム」開催（自然保護課主催）（9月）</li> <li>・ブナの学校運営協議会を通じたJR・青森県との共同プロモーションの実施（東京での講座：8月、ツアー：9月、10月）</li> <li>・埼京線・中央総武線トレンチャンネル等による白神山地30周年観光誘客（9月）（JR東日本協力、青森県共同）</li> <li>・4年度実施した「五能線フォト投稿キャンペーン」応募作品を、東能代駅跨線橋内に展示（JR東日本協力）</li> <li>・管内関係団体による「あきた白神」30周年ロゴ共通利用</li> <li>・春の白神ウィーク（6/10-18）、秋の白神ウィーク（10/21-29）の開催（藤里町）</li> <li>・「留山森の音（ね）物語」留山を会場に音楽会を開催（7～11月）（八峰町）</li> </ul>	<p>◎白神山地が本来有する価値である「人と自然との関わり、文化、風土」について、積極的な活用が見られず、隣接する文化遺産との連携も不足している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→世界自然遺産と縄文文化を組み合わせ「ブナ帯文化」を軸に観光コンテンツを造成。</li> <li>→鉄道利用、二次アクセスと新たなコンテンツを結んだコースを提案・商品化を進める。</li> <li>→造成した木材体験コンテンツを管内観光事業者に広め、体験者数を増やしていく。</li> </ul> <p>◎白神山地への来訪者数は減少し続けており、関係者が一体となったPRが不可欠。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→白神山地への誘客促進のため、地域や本庁関係課と連携して、首都圏を中心にPRしていく。</li> <li>→白神山地と屋久島の自然の魅力を比較した映像を活用し、自然に魅力を感じる層をターゲットに誘客を図る。</li> <li>→ブナの学校運営協議会を通じて鉄道利用者を中心に情報発信、プロモーション、現地ツアーを行う。</li> </ul>

秋田地域【目指す姿】大自然を満喫するアクティビティの充実と日常生活の魅力発信による”生活観光”の推進

プロジェクトの柱	取組方針	令和5年度の主な取組の状況（R5.10.31現在）	課題・R6年度の対応方針（予定）
1 男鹿の海・山で楽しむ、アクティビティなどの充実・提供	(1)「アクティビティ」の充実による誘客の推進 (2)男鹿ならではの「食」の充実による誘客の推進 (3)多様な「宿泊」の展開	(1)「アクティビティ」の充実 ・E-bike等を活用したスポーツツーリズムやナマハゲに係る文化ツーリズムを推進。(男鹿市) ※令和3年度に振興局事業でサイクリングをテーマとしたモデルプランを作成。 ・遊覧船を活用した男鹿半島西海岸の優良なコンテンツの磨き上げやPRを実施。(男鹿市) (2)男鹿ならではの「食」の充実 ・民間団体による男鹿の食材を利用した飲食店やクラフトサケ・クラフトビール等の展開。 ・民間団体が主導して国際海藻サミット(令和5年度文化庁「食文化ストーリー創出・発信モデル事業」採択)を男鹿市で開催するなど、男鹿の海藻食文化の積極的な発信が行われている。 (3)多様な「宿泊」の展開 ・男鹿温泉郷の宿泊施設のリニューアルにより多様な宿泊ニーズへの対応が進んでいる。(男鹿市)	◎既に男鹿市や民間団体で自走している取組や新たに始まった取組などについて、県としての関わり方を再検討し、継続に向けての支援を行っていく必要がある。 →男鹿市や民間団体との連携を強化し、情報共有を図りながら進めていく。 ◎アクティビティや体験プログラム等の情報発信を強化する必要がある。 →当振興局において、令和6年度「秋田の観光アクティビティ掘り起こし事業」を実施予定。既存コンテンツについての情報発信も強化していく。
2 「五城目朝市」から広がる暮らしを楽しむ”生活観光”の推進	(1)「暮らしから染み出てくる魅力のおすそ分け」をキーワードにした「生活観光」の推進 (2)「生活観光」をきっかけとした関係人口等の拡大と地域の活性化	(1)(2)「生活観光」の推進 ・湖東3町(五城目町・八郎潟町・井川町)において生活観光をテーマとした地域の観光モデルプラン創出事業を業務委託として実施。 ・行政、商工団体、受託者により構成した協議会をこれまで2回開催し、モニターツアー全2回を実施した。モデルプラン作成に向け、ツアー参加者からの意見等の取りまとめを行っている。	◎モデルプランの活用について検討し、生活観光をきっかけとした関係人口等の拡大や地域の活性化につなげていく必要がある。 →事業終了後も各町関係者や受託事業者等と十分に連携を取りながらモデルプラン活用の可能性について検討し、場合によってはフォローアップ等も行っていく。
3 交通結節点における観光情報の発信強化によるプレジャー需要等の開拓		(1)観光情報の発信強化 ・マイクロツーリズムで流動する県内観光客や秋田駅周辺の宿泊施設に滞在またはクルーズ船で寄港した県外観光客などを対象に、秋田管内の観光情報を掲載したガイドブック『ぶちたびあきた』を8,000部作成し、空港・駅・秋田駅周辺施設等へ配置した。 ・管内で行われるイベントにおいて設けられた観光PRブース等でガイドブックの配布を行い秋田地域の魅力をPRした。	◎コロナ禍を経て変化しつつある観光客のニーズに対応した事業展開が必要である。 →アンケートの実施などにより観光流動実態を掴みながら、ガイドブックを更新して配布するなど、管内の観光情報の発信を強化していくことで、より満足度の高い観光コンテンツづくりを進めていく。

由利地域【目指す姿】人の営みと自然の営みが共存・融合・調和する鳥海エリア

プロジェクトの柱	取組方針	令和5年度の主な取組の状況（R5.10.31現在）	課題・R6年度の対応方針（予定）
1 鳥海山ブランド力を生かした観光振興	(1)由利地域における域内観光の振興と交流人口の拡大 (2)由利・庄内両地域の交流促進と他圏域からの誘客促進による交流人口の拡大	(1)由利地域における域内観光の推進を図る体制(由利地域観光推進機構) ①由利本荘市、にかほ市、管内観光事業者等と連携し、県外の旅行会社60社へ訪問営業 ②管内周遊イベントの実施 ・にかほんじょうはるめぐりスタンプラリー-2023(期間4/8～5/21、応募者902人) ・由利地域道の駅バトル(期間9/1～10/31、※現在、実績集計中) ③由利地域の2市を周遊する旅行商品への助成事業を実施(助成実績:5社の6商品) (2)環鳥海地域における広域的な観光推進を図る体制(環鳥海連携事業実行委員会) ※環鳥海地域:秋田県由利本荘市・にかほ市、山形県酒田市・遊佐町の3市1町。 各種事業は山形県の庄内総合支庁と連携して実施。 ①広域周遊観光イベントの実施 ・まるっと鳥海わくわくキャンペーンスタンプラリー(7/1～10/31、応募者集計中) ②山形県と連携した環鳥海共同プロモーションの実施 ・「ハイウェイフェスタとうほく」に出展(9/16～17、会場:仙台市、延べ来場者約5万3千人) ③鳥海山をテーマとしたInstagram投稿キャンペーンの実施(7/1～12/31) ④登山系YouTuberによる鳥海山登山動画の制作 ・8月下旬に「オトナ女子の山登り」チャンネルに動画を投稿。11月上旬時点で登山動画は約3.5万回再生。	◎鳥海山自体の知名度は高いが、その周辺の由利地域や環鳥海地域の認知度は高くない。また冬季の話題や観光コンテンツが少ない。 →ローカルな地域名のみでは他県の方には伝わりづらいため、秋田県や山形県の地域であることを強調したり、名所や名物と併せた情報発信により、認知度を高めていく。また、冬季の誘客や観光振興に取り組む団体や事業者等を支援していく。
2 各種アクティビティ等の充実による誘客の促進	(1)アウトドア・アクティビティの充実 (2)スポーツを通じた交流人口の拡大 (3)観光コンテンツとしての由利高原鉄道の充実	(1)アウトドア・アクティビティの充実 ①モンベル直営店を含むアウトドアアクティビティ拠点の整備等(にかほ市) ・現在工事が進行中。R6年の春にオープン見込み。 ②Instagramを活用した由利地域の夏の魅力に関する写真投稿キャンペーンを実施 ・期間7/1～9/30 応募159件 ③モンベルと連携したアウトドア体験イベントの開催(由利本荘市・にかほ市) ・由利本荘市(9/23～24:法体園地キャンプ場)、にかほ市(7/29:にかほと、10/21:南極公園周辺) (2)スポーツを通じた交流人口の拡大 ・ナイスアリーナスポーツ合宿・大会等の誘致(由利本荘市) 帝京長岡高等学校柔道部合宿(5/5～7)、Vリーグ日立Astemoリヴァーレ合宿(8/7～14)等 (3)観光コンテンツとしての由利高原鉄道の充実 ①イベント列車の運行(由利高原鉄道) ・「こいのぼり列車」(4/22～5/5)、「たなばた列車」(6/24～7/7)、「クリスマス列車」(12/16～25)など、季節のイベントや行事に合わせて運行。 ・イタリアンのランチが車内で楽しめる「レストラン列車 affeto treno」の運行(5月、8月、9月、10月、11月) ②沿線の観光スポットと併せた情報発信(由利高原鉄道 ほか) ・SLAM DUNKの聖地として話題になった森子大物忌神社への、最寄り駅からのアクセスマップの作成等。 ③駅弁の開発(由利高原鉄道 ほか) ・地元住民やホテルと協力し、県産食材を使用した駅弁(予約制)を開発。	◎山形方面からの高速道路の整備が進められており、アクセスが良くなる一方で由利地域が素通りされてしまう恐れがある。 →アウトドアアクティビティを活用したコンテンツの検討など、由利地域へ立ち寄り、楽しんでもらうための取組を行っていく。また、地域の観光資源と組み合わせた誘客を行っている由利高原鉄道とは、情報発信等でも連携しながら利用促進を図っていく。
3 「エコ」「ジオ」「環境」等を切り口としたサステナブルツーリズムの推進	(1)鳥海ダムを活用した観光コンテンツの開発 (2)ジオパークの活用による観光産業の振興	(1)鳥海ダムを活用した観光コンテンツの開発 ①ダム建設現場見学のための展望台設置(6月上旬～11月上旬)や現場見学会の実施(鳥海ダム工事事務所) ②ダム工事現場の見学ツアー(7月～10月)の実施(由利高原鉄道) (2)ジオパークの活用による観光産業の振興 ①ジオサイト等における観察・体験ツアー等の実施(由利本荘市、にかほ市観光協会 等) ・加田喜沼湿原:生きもの調査(7/23) ・中島台・獅子ヶ鼻湿原:春恋スノートレッキング(4/8)、GGTトレッキング(5/28、6/18)、紅葉ギンガトレッキング(10/25) ②行政職員に向けたジオパークセミナーの開催(鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会) ・由利地域振興局で開催(10/3)	◎専門知識を持たない一般の方にも、ダムやジオパーク等の魅力や価値をわかりやすく伝えていく必要がある。 →各団体等でガイドの育成を行っているほか、ガイド付きのツアーやアクティビティを実施しており、情報発信等で協力して、認知度向上と誘客促進を図っていく。

仙北地域【目指す姿】アウトドア・アクティビティの聖地化とスノー&ナイト体験型観光の推進

プロジェクトの柱	取組方針	令和5年度の主な取組の状況（R5.10.31現在）	課題・R6年度の対応方針（予定）
1 田沢湖エリアや真木真屋 エリア等を活用したアウト ドア・体験型観光の推進	<p>(1)大自然の魅力・恵みを全身で 感じられる体験型コンテンツの 造成・磨き上げ</p> <p>(2)乗り物を活用した自然満喫プ ランの推進</p> <p>(3)ICT技術を活用した観光の推 進</p>	<p>(1)大自然の魅力・恵みを全身で感じられる体験型コンテンツの造成・磨き上げ</p> <p>①夏場のスキー場を活用した観光コンテンツの開発(振興局、業務委託:大仙市観光物産協会)</p> <p>②夏場のスキー場の賑わいづくり(振興局)</p> <p>③デジタルパンフレットの作成</p> <p>④親子トレッキング教室(大仙市)</p> <p>⑤秋～冬に山登り教室(大仙市)</p> <p>⑥田沢湖リゾートイベント事業の実施→仙北市におけるリゾート推進(仙北市)</p> <p>⑦グリーンツーリズムブラッシュアップ事業の実施(仙北市)</p> <p>⑧トリアスロン合宿誘致事業の実施(仙北市)</p> <p>⑨秋田アウトドアベース主催「TAZAWAKO BLUE WEEK 2023」の開催(仙北市)</p> <p>⑩砂防堰堤を活用したボルダリング施設の整備(仙北市)</p> <p>⑪田沢湖畔の利用適正化に向けた意見交換等の実施(仙北市、田沢湖・角館観光協会、振興局ほか)</p> <p>⑫美郷町アクティビティ協議会(MAC)の設立(あきた美郷づくり株式会社)</p> <p>⑬インバウンドに関するモニターツアーの実施(あきた美郷づくり株式会社)</p> <p>⑭MOC(モンベル・アウトドア・チャレンジ)登山イベントの実施(美郷町)</p> <p>⑮観光ガイドの育成(美郷町)</p> <p>(2)なし</p> <p>(3)ICT技術を活用した観光の推進</p> <p>①角館オンデマンド交通「よぶのる角館」運行(仙北市)</p> <p>②二次交通に関する実証実験(ミズモシヤトルの運行)(美郷町)</p>	<p>(1)大自然の魅力・恵みを全身で感じられる体験型コンテンツの造成・磨き上げ</p> <p>①②事業内容のブラッシュアップと継続的な取り組みが必要。</p> <p>→関係機関と連携しながら、更なる事業の拡大と商品化に向けた可能性調査を図る予定。</p> <p>③作成したデジタルパンフレットの活用と周知方法が課題。</p> <p>→SNS等による情報発信を行いながら、引き続き、アウトドア・アクティビティの認知度を高める。</p> <p>④田沢湖の自然環境を保全するとともに、利用者の快適性と安全確保のため、湖面及び湖岸の利用適正化を図る必要がある。</p> <p>→田沢湖ラウンドテーブルを継続して行い、環境面・観光面等多角的にあり方を検討していく。</p> <p>※地域振興局に関する部分のみ記載</p>
2 冬季及び夜の観光地とし ての魅力強化	<p>(1)スノー体験型コンテンツの強 化</p> <p>(2)冬まつりや酒蔵等の地域資源 を活用した冬と夜の誘客促進</p>	<p>(1)スノー体験型コンテンツの強化</p> <p>①ヤマノサウナの運営(あきた美郷づくり株式会社)</p> <p>②出張サウナテント事業(大仙市観光物産協会)</p> <p>(2)冬まつりや酒蔵等の地域資源を活用したスノーアクティビティの集約</p> <p>①冬まつりスタンプラリーの実施(振興局) ※2月実施予定</p> <p>②雫石・田沢湖・角館地域による誘客促進(振興局、仙北市、田沢湖・角館観光協会ほか)</p> <p>③冬期間のアクティビティの構築(美郷町) ※1月と2月に実施予定</p> <p>④冬期間のアクティビティの構築(あきた美郷づくり株式会社)</p> <p>⑤五感で体感! 武家屋敷で秋田の地酒を学ぶ体験(田沢湖・角館観光協会)※12月と1月に実施予定</p> <p>⑥JAFのドライブスタンプラリー(大曲仙北観光圏域推進協議会)</p>	<p>(2)冬まつりや酒蔵等の地域資源を活用したスノーアクティビティの集約</p> <p>①②冬期間は観光客が落ち込むため、それらを改善するための継続的な取り組みが必要。</p> <p>→関係機関と連携し、各事業をブラッシュアップしながら継続して実施する予定。</p> <p>※地域振興局に関する部分のみ記載</p>

平鹿地域 【目指す姿】魅力ある地域資源を活かした横手ファンの獲得

プロジェクトの柱		取組方針	令和5年度の主な取組の状況 (R5. 10. 31現在)	課題・R6年度の対応方針 (予定)
1	地域の食文化や歴史に触れる体験型観光の推進	(1)体験メニューの充実/触れて学べるツーリズムの推進 (2)特色ある食文化の情報発信の強化	(1)イベントを通じた特色ある食文化の情報発信 ・横手やきそばフェスティバル2023の開催(9/23-24 秋田ふるさと村 10,019人) 横手やきそばの麵を使ったアレンジレシピを募集し99件の応募があり、採用された4件をイベント限定で提供した。 また横手焼きそば作り体験ブースを設営し、40組が体験を行った。 ・発酵関連イベント 発酵フォーラムinよこて(10/7 浅舞公民館 約100人) ・発酵関連イベント あきたまるごと食の祭典(11/3-5、秋田ふるさと村)  (2)体験型観光コンテンツの造成 ・観光庁補助事業を活用し、横手の食文化や歴史に触れる2つの体験型観光コンテンツを造成中。 コンテンツ1.「横手のかまくら」を拡大開催！かまくら×横手城のロケーション、空間を独り占めできる「あなただけの特別なかまくら体験」 コンテンツ2.雪国の生活が育んだ発酵食を中心とした「あなただけの横手料理体験」	◎横手独自の特色ある食文化をイベントを通じて情報発信することができたものの、通年で体験できるコンテンツが少ない。通年で地域事業者が提供する体験型コンテンツの造成、単発で終わらない商品造成を誘発する仕組みづくりを行う。 →既存の体験型観光コンテンツの磨き上げのワークショップ等を開催し商品造成の人材育成を行う。
2	マンガや内蔵の文化保存と継承が息づく増田エリアの回遊促進	(1)増田エリア内のアクセス向上/回遊促進 (2)まんが美術館と増田のまちなみが融合する取組 (3)まちなみ散策促進	(1)増田エリア内のアクセス向上/回遊促進 ・タクシーを活用した利便性向上のための情報発信 横手の魅力を詰め込んだラッピングタクシーの運行、よこてドライブの継続 ・まんが美術館と町並み回遊のための相互観光情報提供 ・増田の町並みへのストリートWi-Fiの整備・保守 ・デジタルサイネージを活用した観光情報の発信 増田地域2箇所へ設置 ・漫画コンテンツを用いた街歩きアプリ「ON THE TRIP」の利用促進  (2)まんが美術館と増田のまちなみが融合する取組 ・エヴァンゲリオン大博覧会に連動した増田の町並みとまんが美術館をめぐるスタンプラリー、コラボメニュー・商品の提供(7/1-9/24) ・内蔵を会場としたマンガの企画展開催(9/23-1/28)  (3)まちなみ散策促進 ・地域通訳案内士の育成 観光庁長官の同意を得て、地域通訳案内士育成等計画を策定。語学、コミュニケーション・ホスピタリティガイドスキル、増田エリアを始めとした地域観光に関する研修を実施(英語の地域通訳案内士9名を育成中)。	◎増田の町並みと増田まんが美術館それぞれに訴求する観光客にはギャップがある。継続して回遊するための仕組みづくりが必要である。 →回遊促進のためWi-Fiを利用した観光施設デジタルマップの運用を検討する。増田と近隣市町村による「食」をテーマとした新たなコンテンツを検討する。
3	スポーツと融合した誘客促進と気軽に滞在できる環境の充実	(1)モニターツアー造成等による商品造成促進 (2)多様なニーズに対応した施設の整備	(1)スポーツイベントを通じた誘客促進 ・サイクリングイベント「旬感よこてフルーツ&米ロード かまくら・ライド2023」の開催(9/17、参加者380名) 各エイドでは横手焼きそば、パパヘラアイス、洋ナシ&ぶどうジュースなど地域にちなんだ内容の食事を提供。  (2)多様なニーズに対応した施設の整備 ・地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業により、横手市全域を対象に、ワーケーションの受入強化、インバウンド需要に対応した宿泊施設や観光施設の改修等を実施 (参加事業者数:宿泊施設6施設、観光施設3施設)	◎イベントによる誘客が一時期に集中することの解消や宿泊施設の利用者を増やすための取組が必要。 →イベントからスピノフした手軽なメニューを作り出すことで誘客の平準化を図る。また、ナイトタイムコンテンツへの誘引及び隣接地域のコンテンツ販売の連携を図る。

雄勝地域 【目指す姿】雄勝地域の人の魅力で、リピーターを生み出す

プロジェクトの柱		取組方針	令和5年度の主な取組の状況 (R5. 10. 31現在)	課題・R6年度の対応方針 (予定)
1	地元の人の「顔が見える観光マップ」を通じた「名物人」との交流による「ここでしか味わえない雄勝」の体験	【観光マップのイメージ】	○「ガイドウォークゆざわおがち」の開催(雄勝地域振興局) ・湯沢市・羽後町でガイドツアーを実施。 (7/1~8/6、全5コース、43名参加) ○「やま歩き、まち歩き2023」の開催(湯沢市観光物産協会) (9/9~11/3、全12コース) ○顔が見える観光マップ作成予定 ・作成地区:羽後町地区、名物人データベース:約8人掲載 ・今年度はデジタルのみ作成し、来年度は紙媒体での印刷を予定。	◎名物人による観光マップの制作に向けて、新たな人材の発掘のほか、各地区でのガイド技術の向上や人材育成を進めていく必要がある。 →名物人の人材確保・育成を進め、データベースを拡充する。 →顔が見える観光マップを紙媒体で印刷し、デジタルと紙媒体の両方での周知に努め、更なる誘客に繋げる。
2	「非日常」を体験する度に「レベルアップ(成長)」を実感する旅の提供による誘客の推進	【レベルアップ(成長)を実感する旅のイメージ】	○かむろ夏の恵み おいしく学ぶ「自然&有機栽培」(湯沢市観光物産協会) (第1回:7/29、第2回:10/7、コース内容:「夏野菜の収穫」や「秋野菜の種まき」体験等) ○冬の仙人修行体験・小安峡温泉ツアー(東成瀬村・湯沢市) 1月下旬 2泊3日(予定)	◎一度だけでなく何度も訪れたいような魅力的な観光コンテンツや地域づくりが必要である。 →生活観光(農作業や冬季労働等)の視点を活かした体験ツアーを実施し、新たな魅力の発掘を行う。